

(様式第8号)

事業報告書（令和5年度）

事業名 インターネットラジオを活用して「社会貢献の輪」をつくろう！

団体名 一般社団法人コノヒトカン 担当者名 東本 孝

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日時 2023年6月～2024年2月

場所：インターネットラジオ放送局ゆめのたね 岡山市北区奉還町

参加対象者；

コノヒトカンと関わりのある方(コノヒトカン 1000 缶プロジェクトに出場した高校生チームや教員、審査員、大学教授や大学生、またコノヒトカンの支援・協賛企業の代表者、コノヒトカンの支援を受けた団体代表者)

人数；ゲスト総勢 18 名

36 回放送

内容：インターネットラジオ「ゆめのたね」に出演していただき

コノヒトカンとの関わりをお聞きし、30 分間でコノヒトカンとの活動を振り返る。



この人と...
このひとと時間。 

第34回 
毎週日曜日
19時30分

2024年1月7日と1月14日のゲスト

この番組では、コネトカンに聞かせて下さった方々
をお招きしゲストの方の熱い思いと共にコネトカ
ンという小さな布鞋に聞かされた大人たちの物語をご
紹介させていただきます。



2. ESD の視点
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
ラジオ収録という経験を通して、出演者(企業の代表者や支援活動を行っている団体、また高校生や大学生)の社会貢献活動に対する考えや想いを発信することで、身近にある社会課題に目を向け、それを解決するためのアクションのきっかけとなった。
② どのように学び合いを取り入れたか
コノヒトカン 1000 缶プロジェクトの出場した高校生や教員に社会貢献活動に対する想いやアイデア等の良かった点を「想いのバトンリレー」として。取組の良い点をピックアップすることで高校生の学びに繋がりました。
③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
音源を授業等でも活用することにより、一方通行ではない情報提供をすることができる。出演者の想いを又聞きではなくダイレクトに生徒たちに聞いてもらうことで、より実感をもった気づきにつながりました。さらに、出前授業を受けた児童、生徒たちにアンケートをいただき想いをきちんと受け取ることが出来ました。
3. 取組の成果 (事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。)
出演者や、授業を受講した生徒たちにアンケートを実施し回答をいただくことでインターネットラジオ「ゆめのたね」を活用することで、SDGs を掲げる企業や教育関係者、教育を受けている子どもたちと共にみんなで考えられる、団体独自の発信方法を構築できた。 最終的には、団体の諸活動を通じて、困難な状況にある子どもを支えるだけでなく、子どもも参加できる社会貢献活動を生み出し、子どもも大人もみんなで支え合うことができるしくみをつくる礎となりました。
4. 今後の課題と展望 (事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか)
一般社団法人コノヒトカンとして以下の発展・継続を目指します。 第3回コノヒトカン 1000 缶プロジェクトを 2024 年 10 月 5 日に開催が決定し 第4回開催予定 2025 年には文部科学省の後援を申請し承認を得て、コノヒトカン 1000 缶プロジェクトを全国展開する。

未来に希望を持たない心の貧困が子どもたちに根付いてしまわないように、課題解決に取り組む地域の大人たちと、子どもたちとの繋がりをつくる。

食品廃棄について、問題意識を持って取り組む大人の存在と取組内容を子どもたちに伝える(食育の浸透)。

食をテーマに、団体の活動全般を通じて企業間との連携を大切に取組みを進める。

世界中で問題になっている「フードロス」・「貧困問題」それに加えコロナ禍を経験した世の中は、「心の貧困」で自分も他人も大切にできない人々が増えています。

～世界一あったかい缶詰～「コノヒトカン」は、携わっている大人たちの強みを活かし出来上がった缶詰です。たくさんの想いが詰まってきた缶詰「コノヒトカン」にはストーリーがあります。そのストーリーを伝えることで、高校生達が「自分も何かできるのではないか」「誰かの為に手伝えることはないだろうか」と自分で考え、行動を起こせるきっかけづくりになって欲しいと願います。

未来への夢や目標を胸に抱き、「自分にもできる」と自己肯定感を高め、未来に希望を持てる子供たちを増やしていきます。たくさんの想いが詰まった世界一あったかい缶詰「コノヒトカン」は、地域の未来を担う子どもたちを全力で応援していきます。